



2025年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年6月13日

上場会社名 株式会社 山王 上場取引所 東
コード番号 3441 URL <https://www.sanno.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）荒巻 拓也
問合せ先責任者 （役職名）取締役 （氏名）浜口 和雄 TEL 045-542-8241
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無： 無
決算説明会開催の有無： 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年7月期第3四半期の連結業績（2024年8月1日～2025年4月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年7月期第3四半期	7,759	23.0	749	79.4	758	37.3	629	25.0
2024年7月期第3四半期	6,308	△16.1	417	△4.7	552	17.2	503	23.1

（注）包括利益 2025年7月期第3四半期 469百万円（△33.6%） 2024年7月期第3四半期 707百万円（24.4%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年7月期第3四半期	140.99	—
2024年7月期第3四半期	109.42	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年7月期第3四半期	12,136	6,779	55.9	1,543.01
2024年7月期	12,054	6,419	53.3	1,437.50

（参考）自己資本 2025年7月期第3四半期 6,779百万円 2024年7月期 6,419百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年7月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2025年7月期	—	0.00	—		
2025年7月期（予想）				20.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2025年7月期の連結業績予想（2024年8月1日～2025年7月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,900	1.1	250	7.3	250	△31.1	200	△36.1	44.78

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 有
新規 1社 (社名) 株式会社明王化成、除外 1社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年7月期3Q	5,000,000株	2024年7月期	5,000,000株
② 期末自己株式数	2025年7月期3Q	606,148株	2024年7月期	534,248株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年7月期3Q	4,463,966株	2024年7月期3Q	4,601,901株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 有 (任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付資料】P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済におきましては、アメリカ経済ではインフレ率鈍化の中で個人消費は比較的堅調さを維持していたものの、期後半には減速感が見られる状況となりました。中国経済では輸出は比較的堅調に推移したものの不動産市場など内需低迷により、全体としては景気の停滞が継続しました。また、ウクライナや中東地域をめぐる情勢の緊迫化、アメリカ新政権による政策動向をめぐり世界経済の悪化懸念が高まる等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

我が国経済におきましては、企業の景況感改善に加え、個人消費や好調なインバウンド需要により景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、在庫調整の影響やエネルギー・原材料価格の高止まりなど一進一退の状況となっております。

当社グループが属する電子工業界では、中国の景気低迷の影響などにより産業機器向け分野は回復に至らず低迷が継続したものの、自動車市場では比較的底堅く推移し、通信市場においても一部製品において需要が回復するなど、当第3四半期連結累計期間は厳しさが継続する中でも堅調に推移しました。

このような状況のもと、当社グループは、微細めっき技術の追求等による品質向上や、製造工程の自動化、生産拠点管理の効率化等による生産性向上に積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,759百万円（前年同期比 23.0%増）、営業利益は749百万円（前年同期比79.4%増）、経常利益は758百万円（前年同期比37.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は629百万円（前年同期比25.0%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金が360百万円減少したものの、原材料及び貯蔵品が264百万円、建設仮勘定が213百万円増加したこと等から、前連結会計年度末と比べ82百万円増加し、12,136百万円となりました（前連結会計年度末は12,054百万円）。

負債は、短期借入金が160百万円、未払法人税等が73百万円増加したものの、流動負債その他が199百万円、長期借入金が236百万円、固定負債その他が77百万円減少したこと等から、前連結会計年度末と比べ278百万円減少し、5,356百万円となりました（前連結会計年度末は5,634百万円）。

また、純資産は、為替換算調整勘定が141百万円減少したものの、利益剰余金が584百万円、自己株式が66百万円増加したこと等から、前連結会計年度末と比べ360百万円増加し、6,779百万円となりました（前連結会計年度末は6,419百万円）。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年9月13日に公表いたしました通期業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,901,078	3,541,055
受取手形	439,178	476,030
売掛金	1,742,061	1,810,256
製品	179,830	194,515
原材料及び貯蔵品	1,790,753	2,055,736
その他	186,006	122,236
貸倒引当金	-	△493
流動資産合計	8,238,908	8,199,337
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	429,819	424,862
機械装置及び運搬具（純額）	601,748	535,100
土地	1,226,410	1,226,410
リース資産（純額）	212,981	211,499
建設仮勘定	539,974	753,432
その他（純額）	137,566	144,927
有形固定資産合計	3,148,501	3,296,232
無形固定資産	147,300	123,642
投資その他の資産		
投資有価証券	358,207	340,564
繰延税金資産	847	11,401
その他	160,739	165,433
投資その他の資産合計	519,794	517,400
固定資産合計	3,815,595	3,937,275
資産合計	12,054,504	12,136,612

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	364,053	366,464
短期借入金	2,520,000	2,680,000
1年内返済予定の長期借入金	346,148	348,090
リース債務	70,692	75,096
未払法人税等	19,856	92,895
その他	699,582	500,352
流動負債合計	4,020,332	4,062,898
固定負債		
長期借入金	1,119,350	883,042
リース債務	199,815	188,525
退職給付に係る負債	175,456	180,151
繰延税金負債	1,795	1,965
その他	118,220	40,274
固定負債合計	1,614,638	1,293,959
負債合計	5,634,970	5,356,858
純資産の部		
株主資本		
資本金	962,200	962,200
資本剰余金	870,620	872,746
利益剰余金	3,761,183	4,345,912
自己株式	△260,558	△327,291
株主資本合計	5,333,445	5,853,568
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	68,525	50,370
為替換算調整勘定	1,012,211	870,741
退職給付に係る調整累計額	5,350	5,072
その他の包括利益累計額合計	1,086,088	926,184
純資産合計	6,419,533	6,779,753
負債純資産合計	12,054,504	12,136,612

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)
売上高	6,308,219	7,759,548
売上原価	5,027,488	6,076,362
売上総利益	1,280,730	1,683,186
販売費及び一般管理費	862,895	933,711
営業利益	417,835	749,475
営業外収益		
受取利息	28,336	28,001
為替差益	4,810	-
補助金収入	122,233	11,579
その他	23,611	26,125
営業外収益合計	178,991	65,705
営業外費用		
支払利息	32,056	41,041
為替差損	-	5,701
その他	12,717	10,383
営業外費用合計	44,774	57,126
経常利益	552,052	758,053
特別利益		
投資有価証券売却益	8,664	-
固定資産売却益	314	1,123
特別利益合計	8,979	1,123
特別損失		
固定資産除却損	267	370
特別損失合計	267	370
税金等調整前四半期純利益	560,764	758,807
法人税、住民税及び事業税	56,485	133,781
法人税等調整額	747	△4,360
法人税等合計	57,233	129,420
四半期純利益	503,530	629,386
親会社株主に帰属する四半期純利益	503,530	629,386

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2023年8月1日 至 2024年4月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2024年8月1日 至 2025年4月30日）
四半期純利益	503,530	629,386
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,973	△18,154
為替換算調整勘定	209,619	△141,470
退職給付に係る調整額	1,233	△277
その他の包括利益合計	203,878	△159,903
四半期包括利益	707,409	469,483
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	707,409	469,483

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)
減価償却費	344,041千円	322,396千円
のれん償却費	-千円	4,330千円

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2023年8月1日 至 2024年4月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：千円）

	日本	フィリピン	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	4,198,180	2,110,038	6,308,219	-	6,308,219
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,601	-	4,601	△4,601	-
計	4,202,781	2,110,038	6,312,820	△4,601	6,308,219
セグメント利益	66,416	296,646	363,063	54,771	417,835

（注）1．セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2024年8月1日 至 2025年4月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：千円）

	日本	フィリピン	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	5,402,609	2,356,938	7,759,548	-	7,759,548
セグメント間の内部売上高 又は振替高	51,125	-	51,125	△51,125	-
計	5,453,735	2,356,938	7,810,674	△51,125	7,759,548
セグメント利益	553,328	168,852	722,180	27,294	749,475

（注）1．セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年6月13日

株式会社山王
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指 定 有 限 責 任 社 員 公 認 会 計 士 木 村 純 一
業 務 執 行 社 員

指 定 有 限 責 任 社 員 公 認 会 計 士 中 村 大 輔
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社山王の2024年8月1日から2025年7月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年2月1日から2025年4月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年8月1日から2025年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注） 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。